

最初に祈りましょう。

全能の神よ、あなたの聖なるみことばである聖書を感謝します。私たちがイエス・キリストにあって満ち満ちた者となれることを教えてくれるコロサイ人への手紙を感謝します。神よ、今朝ここにいるすべての人を祝福し、あなたの偉大さを少しでも理解できるように助けてください。人には神の偉大さがわからないとみことばは語りますが、少しでもあなたの偉大さがわかるように助けてくださいとお願いします。そうして、私たちが日々、あなたの御子イエスに似た者と変えられていきますように。イエスのすばらしい御名によって祈ります。アーメン。

では、コロサイ1章を少し振り返りたいと思います。24節には、「喜びとしています。」という言葉があります。パウロはこの時、投獄されていました。それなのに、喜びがあったのです。

あなたはどうでしょう。喜びを失ってしまっていないですか。喜びとは、神が私たちの人生を支配してくださっているという心の奥底にある確信のことです。

喜びがないのは、自分本位になっていたり、自分をもっとよい人生を送って当然だと思ったりしてしまうからです。

喜びを一旦失ってしまうと、いろいろ困ったことが起こります。というのも、何もかも義務感でしてしまうので、何をしてもあまりうまくいかないからです。

喜びを奪うものをここで4つ挙げておきましょう。

1. 状況
2. 人
3. 所有物
4. 悩み

けれども、良い知らせがあります。

喜びを守ってくれるものが3つあります。

1. 謙虚さ
2. キリストに自らをささげること
3. 神を信頼すること

コロサイ1:27-28はすばらしいみことばです。

1:27 神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

1:28 私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。

パウロは、エペソ人への手紙の著者でもあります。

では、エペソ3:14-21を読みましょう。

3:14 こういうわけで、私はひざをかがめて、3:15 天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります。3:16 どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。3:17 こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、3:18 すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、3:19 人

知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。3:20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、3:21 教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。

エペソ3:17の前半には、「キリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。」とあります。

コロサイ1:27の後半には、「あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望み」とあります。

私たちが人々に伝えたいメッセージは、生ける神が人のところに来てともに住むことを望んでおられることです。

子どもは食物を食べて大きくなります。クリスチャンは、神のみことばに養われて成長します。

私は、毎日聖書を読んで祈りたいと思っています。それは、イエスの似姿へと成長したいからです。

では、コロサイ2:1-10を読みましょう。

2:1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。2:2 それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。2:3 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。2:4 私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。2:5 私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいきます。2:6 あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。2:7 キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。2:8 あのむなししい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません。2:9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。

今日、皆さんに励ましを受けていただきたいと思います。

もし、私たちが愛によって結びあわされているなら、私たちは強くなれます。

では、ピリピ2:1-4を読みましょう。

2:1 こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがあり、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、2:2 私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。2:3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。2:4 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

愛によってひとつにされることがとても大切です。

では、ヨハネ第一4:7-5:3を読みましょう。

4:7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。4:8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。4:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させていただきました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。4:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。4:12 いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。4:13 神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。4:14 私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。4:15 だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神

はその人のうちにおられ、その人も神のうちにあります。4:16 私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおられ、神もその人のうちにおられます。4:17 このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。4:18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。4:19 私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。4:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。4:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。

5:1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。5:2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。5:3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。

コロサイ2:7には、「キリストの中に根ざし、また建てられなさい」とあります。神は愛です。キリストは愛です。ですから、私たちは、愛に根差さなければなりません。私たちが神の愛に深く根ざすことができますように。アーメン。

コロサイ2:10には、「あなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。」とあります。その「満ち満ちた」という部分は、「全き」と言い換えることができます。人はクリスチャンになると、霊的に全き者、または満ち満ちた者になります。霊的に健全な人は、薬に頼る必要はありません。キリストがすべて満たしてくださるので、何も欠けていないのです。他に付け足すべきものはひとつもありません。ですから、あなたがキリストにあって満ち満ちた存在であることを信じてください。

では、コロサイ2:11-23を読みましょう。

2:11 キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。2:13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、2:14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。2:15 神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。2:16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。2:17 これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。2:18 あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようしたり、御使いの礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇り、2:19 かしらに堅く結びつくことをしません。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです。2:20 もしあなたがたが、キリストとともに死んで、この世の幼稚な教えから離れたのなら、どうして、まだこの世の生き方をしているかのように、2:21 「すぎるな。味わうな。さわるな」というような定めにとられるのですか。2:22 そのようなものはすべて、用いれば滅びるものについてであって、人間の戒めと教えによるものです。2:23 そのようなものは、人間の好き勝手な礼拝とか、謙遜とか、または、肉体の苦行などのゆえに賢いもののように見えますが、肉のほしいままな欲望に対しては、何のききめもないのです。

もし私たちがイエスのうちにあるなら、私たちは全き者だということを忘れないでください。

16節には、「だれにもあなたがたを批評させてはなりません。」とあります。

キリストが私たちに完全な救いと赦しと勝利を得させてくださったのなら、すべてがキリストにあって満ち満ちているのなら、誰にもあなたのしていることやしていないことによってあなた自身の霊性を裁かせてはいけません。

神のみことばに人が従う時、神が礼拝されているということになります。私たちは、神を礼拝したいと思っていますか。

もしそうなら、神のみことばに従いましょう。聖書をもっと読みましょう。みことばを学べば学ぶほど、私たちはみことばに満たされます。そして、私たちの考え方がみことばに支配され、みことばが私たちの思いを満たすようになれば、キリストが私たちの思いの一番を占めるようになります。

イエス・キリストに思いを注ぎ、このお方を人生の中心に据えようと決心すれば、これまでの人生で経験したことのないようなことが起こるでしょう。

今日最後に、列王記第一**12:26-13:33**に記されている実話についてお話ししましょう。ソロモン王の没後まもなく、王国の十部族はかつてのソロモン王のしもべヤロブアムに従いました。その個所を読みましょう。

12:26 ヤロブアムは心に思った。「今のままなら、この王国はダビデの家に戻るだろう。**12:27** この民が、エルサレムにある【主】の宮でいけにえをささげるために上って行くことになっていけば、この民の心は、彼らの主君、ユダの王レハブアムに再び帰り、私を殺し、ユダの王レハブアムのもとに戻るだろう。」**12:28** そこで、王は相談して、金の子牛を二つ造り、彼らに言った。「もう、エルサレムに上る必要はない。イスラエルよ。ここに、あなたをエジプトから連れ上ったあなたの神々がおられる。」**12:29** それから、彼は一つをベテルに据え、一つをダンに安置した。**12:30** このことは罪となった。民はこの一つを礼拝するためダンにまで行った。**12:31** それから、彼は高き所の宮を建て、レビの子孫でない一般の民の中から祭司を任命した。**12:32** そのうえ、ヤロブアムはユダでの祭りにならって、祭りの日を第八の月の十五日と定め、祭壇でいけにえをささげた。こうして彼は、ベテルで自分が造った子牛にいけにえをささげた。また、彼が任命した高き所の祭司たちをベテルに常住させた。**12:33** 彼は自分で勝手に考え出した月である第八の月の十五日に、ベテルに造った祭壇でいけにえをささげ、イスラエル人のために祭りの日を定め、祭壇でいけにえをささげ、香をたいた。

13:1 ひとりの神の人が、【主】の命令によって、ユダからベテルにやって来た。ちょうどそのとき、ヤロブアムは香をたくために祭壇のそばに立っていた。**13:2** すると、この人は、【主】の命令によって祭壇に向かい、これに呼ばわって言った。「祭壇よ。祭壇よ。【主】はこう仰せられる。『見よ。ひとりの男の子がダビデの家に生まれる。その名はヨシヤ。彼は、おまえの上で香をたく高き所の祭司たちをいけにえとしておまえの上にささげ、人の骨がおまえの上で焼かれる。』」**13:3** その日、彼は次のように言って一つのしるしを与えた。「これが、【主】の告げられたしるしである。見よ。祭壇は裂け、その上の灰はこぼれ出る。」**13:4** ヤロブアム王は、ベテルの祭壇に向かって叫んでいる神の人のことばを聞いたとき、祭壇から手を伸ばして、「彼を捕らえよ」と言った。すると、彼に向けて伸ばした手はしなび、戻すことができなくなった。**13:5** 神の人が【主】のことばによって与えたしるしのおり、祭壇は裂け、灰は祭壇からこぼれ出た。**13:6** そこで、王はこの神の人に向かって言った。「どうか、あなたの神、【主】にお願いをして、私のために祈ってください。そうすれば、私の手はもとに戻るでしょう。」神の人が【主】に願ったので、王の手はもとに戻り、前と同じようになった。**13:7** 王は神の人に言った。「私といっしょに家に来て、食事をして元気をつけてください。あなたに贈り物をしたい。」**13:8** すると、神の人は王に言った。「たとい、あなたの家の半分を私に下さっても、あなたといっしょにまいりません。また、この所ではパンを食べず、水も飲みません。**13:9** 【主】の命令によって、『パンを食べてはならない。水も飲んではいけません。また、もと来た道を通って帰ってはならない』と命じられているからです。」**13:10** こうして、彼はベテルに来たときの道は通らず、ほかの道を通って帰った。**13:11** ひとりの年寄りの預言者がベテルに住んでいた。その息子たちが来て、その日、ベテルで神の人がしたことを残らず彼に話した。また、この人が王に告げたことばも父に話した。**13:12** すると父は、「その人はどの道を行ったか」と彼らに尋ねた。息子たちはユダから来た神の人の帰って行った道を知っていた。**13:13** 父は息子たちに、「ろばに鞍を置いてくれ」と言った。彼らがろばに鞍を置くと、父はろばに乗り、**13:14** 神の人のあとを追って行った。その人が櫟の木の下にすわっているのを見つくと、「あなたがユダからおいでになった神の人ですか」と尋ねた。その人は、「私です」と答えた。**13:15** 彼はその人に、「私といっしょに家に来て、パンを食べてください」と言った。**13:16** するとその人は、「私はあなたといっしょに引き返し、あなたといっしょに行くことはできません。この所では、あなたといっしょにパンも食べず、水も飲みません。**13:17** というのは、私は【主】の命令によって、『そこではパンを食べてはならない。水も飲んではいけません。』」

もと来た道を通って帰ってはならない』と命じられているからです。」13:18 彼はその人に言った。「私もあなたと同じく預言者です。御使いが【主】の命令を受けて、私に『その人をあなたの家に連れ帰り、パンを食べさせ、水を飲ませよ』と言って命じました。」こうしてその人をだました。13:19 そこで、その人は彼といっしょに帰り、彼の家でパンを食べ、水を飲んだ。13:20 彼らが食卓についていたとき、その人を連れ戻した預言者に、【主】のことばがあったので、13:21 彼はユダから来た神の人に叫んで言った。「【主】はこう仰せられる。『あなたは【主】のことばにそむき、あなたの神、【主】が命じられた命令を守らず、13:22 主があなたに、パンを食べてはならない、水も飲んではいない、と命じられた場所に引き返して、そこであなたはパンを食べ、水を飲んだので、あなたのなきがらは、あなたの先祖の墓には、入らない。』」13:23 彼はパンを食べ、水を飲んで後、彼が連れ帰った預言者のために、ろばに鞍を置いた。13:24 その人が出て行くと、獅子が道でその人に会い、その人を殺した。死体は道に投げ出され、ろばはそのそばに立っていた。獅子も死体のそばに立っていた。13:25 そこを、人々が通りかかり、道に投げ出されている死体と、その死体のそばに立っている獅子を見た。彼らはあの年寄りの預言者の住んでいる町に行き、このことを話した。13:26 その人を途中から連れ帰ったあの預言者は、それを聞いて言った。「それは、【主】のことばにそむいた神の人だ。【主】が彼に告げたことばどおりに、【主】が彼を獅子に渡し、獅子が彼を裂いて殺したのだ。」13:27 そして息子たちに、「ろばに鞍を置いてくれ」と言ったので、彼らは鞍を置いた。13:28 彼は出かけて行って、道に投げ出されている死体と、その死体のそばに立っているろばと獅子とを見つけた。獅子はその死体を食わず、ろばを裂き殺してもいなかった。13:29 そこで、預言者は、神の人の死体を取り上げ、それをろばに乗せてこの年寄りの預言者の町に持ち帰り、いたみ悲しんで、葬った。13:30 彼がなきがらを自分の墓に納めると、みなはその人のために、「ああ、わが兄弟」と言って、いたみ悲しんだ。13:31 彼はその人を葬った後、息子たちに言った。「私が死んだら、あの神の人を葬った墓に私を葬り、あの人の骨のそばに私の骨を納めてくれ。13:32 あの人が【主】の命令によって、ベテルにある祭壇と、サマリヤの町々にあるすべての高き所の宮とに向かって呼ばわったことばは、必ず成就するからだ。」13:33 このことがあって後も、ヤロブアムは悪い道から立ち返ることもせず、引き続いて、一般の民の中から高き所の祭司たちを任命し、だれでも志願する者を任職して高き所の祭司にした。

ここで、注目していただきたいことがあります。王は神の人に、王の家でいっしょに食事をして贈り物を渡したいと言いましたが、神の人はそれに動じませんでした。けれども、年老いた預言者が御使いの話を持ち出すと、まんまとだまされ、命を落とす羽目になりました。その日、獅子に殺されたのです。私たちは、正しいとわかっていることを忠実にやりつづけましょう。この世のあらゆる嘘にだまされてはいけません。

最後にお祈りします。

主よ、あなたは偉大なお方。賛美にふさわしいお方です。私たちは、毎日あなたの御名をたたえます。神よ、私たちは弱く、罪を犯してしまうものです。けれども、キリストにあって全き者とされていることを感謝します。主よ、どうか私たちのすべての罪をお赦しください。日々、私たちはあなたとともに生きる新しい日を与られます。ハレルヤ。どうか日々、あなたのようにになれるよう助けてください。神よ、私たちにはあなたの祝福が必要です。あなたの愛と、私たちの人生を変える力が必要です。アリスティア牧師とウエンディさんのためにもお祈りします。どうかよい旅となり、無事に日本に戻ることができまうように。

イエスのすばらしい御名によって祈ります。アーメン。